

さわがせ

号数 第 3 4 7 号
発行日 令和 7 年 1 月 12 日
発行所 金光教 靱 教会
〒 550-0011
大阪市西区阿波座 2-2-10
TEL&FAX 06(6541) 6313
mail: utubo1905@gmail.com



令和 7 年元旦祭におかげをいただき参拝されました (1月1日)

神様とあいよかけよで助け合い

教会長 鍵山 公生

休みなき金光様の御取次ぎ

教主金光様は一年中、毎日欠かすことなく、午前 4 時にご本部広前の御神前にお出ましになり、お道の信奉者のみならず、世界の人々の幸せを願い、御祈念して下さいます。また参拝者の願いを神様に取り次がれ、神様の御心を私たちに取り次ぐというご用に毎日専念して下さっています。このお働きが教祖様以来 160 年余り続けられ、そのおかげにより多くの人々が救い助けられて参りましたことは、誠にありがたくもったいないことの極みでございます。

当教会においてもそのお手代わりとして、120 年前より靱の地において始められ、現在に至っております。当教会では今は午前 6 時に御祈念をさせて頂いています。とは申しても金光様と同じご用が十分出来ているなどとは恐れ多くて言



えませんが、しかし少しでも心の真似が出来ればありがたいと思いつつ真剣に取り組ませていただいています。

今年の元旦の行い

私は午前4時半に目を覚まし、身支度をして、広前の雨戸を開け、まずは親神様と御霊神様に初水を捧げて拝礼し、次に開門をします。道路に向かって「天地金乃神様、生神金光大神様に昨夜、無事安眠させていただき、目覚めさせていただいた御礼を申し上げます。そして向かいの小学校に向かって、通ってくる子供たち、先生方、そのご両親や、この地域の人々を始め、道路につながる世界の氏子たちの無事安全を願い、世の中で難儀しておられる人、またおかげをいただいております方々がこの広前に参拝され、金光様の道のおかげを受けて、幸せに明るく、楽しく、有り難い生活ができますようにとお願いします。次に広前に向きを変えて、境内にあるお広前を始め諸々の建造物に、そして多数の樹木にお世話になっているお礼を申しあげ、今日もお世話になりますと言ってお願いします。これは早朝のことゆえゆっくりとできませんが、そのときそのときの思いを込めて拝礼します。

そこで私として何か神様や世の人々のお役に立たせて頂くことが出来ないかと願いつつ試行錯誤してきました。

お役に立つ人に

昔から少年少女会の願いで「人のお役に立つ人になります」と誓ってきた私。そこで箒とちり取りを手にして、境内の木の葉を始め、教会周辺道路に捨てられたたばこの吸い殻、木の葉、紙くずなどを掃除して回ります。以前は信奉者の皆様のご奉仕して下さってましたが、今は私が変わってさせていただくようになりました。

昨年末には近所のビル前に植えられた桜から散った葉、次には公園から学校の塀に吹き寄せられたクヌギや銀杏の葉など、毎日毎日掃き寄せても翌日には元通りの姿。いつ木の葉が無くなるやら計り知れない状態です。昔、金光教学院在学中、ご本部境内の木の葉掃除をした時のことを思い出しました。その時今と同じ心境で、いつ掃除が終わるやらきりがないと漏らす人があり、その時ある人から「いつかは終わる！！」と喝破され、何か納得させられたものでした。おかげで年末から元旦にかけて風は収まり、小学校の木の葉の数は減り、周りは美しくなってきました。その後心がさわやかになり、教会へ戻りましたら、ちょうど6時の御祈念の時間です。「情けは人の為ならず、」などと言われますが、人のために掃除しても、結局は自



分の健康保持のため、心明るくなる身のためになるものです。

毎日1時間ほどの清掃活動は20年ほど継続させていただいて来ましたら、3年ほど前のこと、西区役所において、大阪市長から市内美化功労者として感謝状をいただきました。思いがけないことで、決して褒めてもらおうとか、感謝状を望んでいたのではなく、日々天地の神様のおかげを受けている私が、自分にできることで何かお礼返しをさせていただきたいと考え、実行させていただいているだけのことなのです。

早朝のことで掃除していると、時折通行中の人に出会います。神社参拝や、通勤、ジョギングや散歩をする人など様々ですが、私はその人たちに挨拶するよう心がけています。今年の元旦一番に出会ったのは私と同じ年頃の老女で、いつ出会っても挨拶は「今日は寒いね、風邪を引かないようにね」などと気候の挨拶ぐらいで、今回は「お正月なのによく来られましたなあ」と言われ、「ええ、私の命のある限り続けたいと思っています」と返答しました。しかしふと思いつくのに、「命の限り」と言ってみたら、心臓の動く限りと言うことで、



今年も、玄関に彩られた
教会長先生お手製の門松。

時には足が動けなくなったり、腰が立てなくなればできないことで、言い換えれば神様が私を使って下さらなければ、何もできないなあ。などと自問自答するのでした。

よく「私は散歩して運動してます」と言われる方がありますが、ただの散歩だけではなく、それに併せて人のお役に立つご用になることがいると思います。そこで私は誰にも迷惑のかからない時間帯に掃除をさせていただくことになったのです。

元日の一日

掃除から帰ると午前6時。定例の御祈念、教話、ラジオ体操などをして終わります。後は新聞に目を通し、ほんの少しの御神酒を杯に入れ、夫婦のみでの年始の挨拶を交わし、お雑煮を頂き、ご神前のお供え物を整え、元旦祭の準備をして参拝者をお待ちします。

私と若先生はお装束を着けて、教会の楽人たちの奏楽に合わせ、10時半より祭典が始まります。穏やかな気候に恵まれ、拝詞、祭詞が唱えられ、教会長の教話。「永遠の祈り」の歌を合唱。全員で記念写真を撮影してそれぞれ挨拶を交わされ

ました。

続いて若先生が留守番をされ、家族一同は、昨年末、新築移転された大阪市生野区巽の大阪教会に参拝して、教会ご家族の皆様にご挨拶申し、帰教させていただきました。当方教会家族は夕方から一族そろって会食となりました。

私は皆様からいただいた年賀状に一通り目を通しながら皆様の幸せを祈り、夜には改めて信奉者名簿を繰って、長年参拝していない方も全て含めて、住所と約350人ほどの氏名を唱え、昨年を無事過ごさせて



いただいた御礼と、今年も信奉者が健康で、楽しく、面白く、有り難く過ごせますようにとご祈念をさせていただいたのです。

私は何のために生まれてきたのだろうか

私たち人間は何のためにこの世に生まれてきたのだろうか、と疑問に思う人がありますが、その神様の御心は定かではありませんが、神様はこの天地をお造りになり、人間を始め動物、植物、一切のものを生かしてくださっています。

天は父、地は母であると仰せられ、神様は私たちの親です。そして人間一人ひとりの心に神様の魂（分け御霊）が宿り、私たちを生かし続けて下さるのです。しかしなぜ私たちが困るような難儀な問題、例えば病気になったり、争いごとが起こるのでしょうか。と疑問に思う人もあると思います。それは生まれた時一人ひとりに個性を持たせられているからで、その個性とは我情というもので、それをとりはらわねば真の幸せは訪れません。

我情を無くすためには心の修行が必要なのです。そしてお与えくださった親神様に感謝の心を表すことです。そして教会に参り、神様や人に徳を積む行いに徹することです。生きていくのは神様と人間とが「あいよかけよ」で立ちゆく生き方、言い換えれば自分の幸せのみを求めるのではなく、神様と人が互いに助け合って、世のお役に立たせていただくことです。今年の一年が幸せになるよう、親神様の御心に添った生き方を求めさせていただきます。

さわかぜは、[鞆教会ホームページ](https://utubo.konko.info/)からもお読みいただけます。



金光教うつぼ教会

検索

<https://utubo.konko.info/>

「人の助かりを祈る」

副教会長 鍵山道隆

●尿管結石

一昨年(9月16日(土))の墓前祭の前日の朝、トイレから出ると、強烈な腹痛に見舞われました。ちょっといつもの腹痛とは違うように思い、すぐ近くの小さな医院に電話をしてもらい、開いていることを確認し、父に車で送ってもらいました。行く車中でだいぶ痛みは治まっていたのですが、医師に診察していただきました。特に検査もしなかったのですが、以前から残尿感があったことなど伝え、膀胱炎の疑いということで、抗生剤と、利尿作用のある薬と、痛み止めの薬を処方されて帰りました。その日は痛みもなく、処方された薬を飲んで過ごしていました。

次の日(9月17日)は午前中、瓜破にて墓前祭をご奉仕させていただきました。その日の夜、お風呂を出た後から急激に腹部から腰のあたりが痛み出して、これは膀胱炎ではなく、うわさに聞く結石ではないだろうかと思いました。横になっても痛みが激しく、鎮痛剤も効かず、家族皆が寝静まっていたのですが、じっとしておれず、お広前で行ったり来たりうろろうしたり、ご祈念してみたりと痛みを耐えながら、この痛みはいつまで続くのかと考えたりしていました。しかし痛みが続くと随分とその痛み慣れてきて、いろいろなことが頭をよぎるようになっていました。ちょうどその時期に胆のうに結石ができている疑いで入院しておられる方が、頭をよぎり、「そのご信者さんも苦しんでおられるのかもしれない」との思いが湧いてきました。



自分のことは次にして、人の助かることを先にお願ひせよ。そうすると、自分のことは神がよいようにしてくださる。(天地は語る 371)

とのみ教えを思い出し、自分の事のお願ひはやめて、一生懸命ご信者さんのお願ひをさせていただこうとの思いでご祈念を始めました。

いつも思うのですが、子どもが不登校になれば、不登校の子どものお届けがある。頭が痛い、体のどこそこが痛いというときには、そこが痛い方を引き寄せら

れるように思います。神様は、教会家族の難儀を通して、その人の事を祈ってくれよ、助けてくれよとの祈りがあって、引き寄せられる。そして、そのことを自分のこととして祈らせていただく。そしてそれが助かりの道を示して下さっていると感念をいただきます。

夜明け頃には、さすがに疲れてご祈念を終えて布団に入り、横になるとすぐに眠りにつくことができ、そのまま昼過ぎまで横になっていると、痛みが治まっていた。月曜日は敬老の日で病院も休診日。珍しく何も予定のない一日だったので、横になっていました。火曜日になり、痛みも治まっていたが、泌尿器科で診察してもらおうと、腎臓が腫れている。尿管も炎症を起こしている。血尿もある。尿管結石と診断されました。

しかしそのような中でも本当に御用も差し支えがなく、また初めに膀胱炎と診断された病院で薬を処方していただいたのですが、結局尿管結石でも同じ薬が処方されることなど考えると神様の都合練り合わせて下さる働きの中で過ごしていると実感させられます。

●人を祈る根底にあるもの

「今まで長い間痛くてつらかったことと、今おかげを受けてありがたいことと、その2つを忘れるな。・・・これからは、人が痛いと言って来たら、自分がつらかった時のことと、おかげを受けてありがたかった時のことを思い出して、神に頼んであげよ・・・」(天地は語る 372)

とみ教えにあるように、つらくて痛くて苦しい時に思い悩んだ感情と、そこから救われた時の喜びや感動の心を土台にして、人のことをわがことと受けとめて、助かりを祈らずにはおれない、この心が大切であると思います。

根底には、人は皆、同じ神様のいのちとつながりあっている関係にあるという事です。「人の身が大事かわが身が大事か、人もわが身もみな人」であり、みな天地のいのちに生かされ、互いにいのちがつながりあっていることに気づき、人を祈ることはそのままわが身の立ち行きを祈る事になります。

またこの二つの感情は、神様がそのことを差し向けられ、私たちの心に宿っている神心がそう思わされたということだと思えます。



「人間は病苦災難の時、神や人に助けてもらうのであるから、人の難儀を助けるのが人間であると心得て信心をせよ」（天地は語る 49）とあります。この「助けてもらうのであるから」という、この「から」という語の解釈について、受け取りようによっては、（助けてもらうのであるから、その代わりに）というような、ギブアンドテイクの意味とも受けとることもできると思います。（中略）しかしいまは、（助けてもらうのであるから、それを手だてとして）というように受けとめたいと思っています。（「ゆるぎないものを」－瀬戸美喜雄氏－より）とおっしゃっておられました。

おかげをいただいたのは、そこから人を助けていくために、わざわざ神様がおかげをくださっているとの願いと受け取らせていただきたいと思います。

●究極の信心の目的は、神になるということです。「人を助けて神になる」その一つが、人を祈るということであり、おかげを受けてくれれば、神様が喜んでくださることになります。天地のいのちに生かされ、お互いのいのちがつながりあっている自分であることに気づき、人を助けてわが身助かる信心へと進めさせていただきたいと思っています。

金光教大阪教会が新築移転（ご遷座）

初代勅教会長 和田安兵衛先生が助けていただいた、初代白神新一郎先生の教会が大阪教会です。これまで大阪市西区立売堀 5 丁目にありましたが、令和 6 年 10 月 27 日から、大阪市生野区巽中に新築移転（ご遷座）されました。11 月 24 日には、新築落成奉告祭が執り行われました。



教会正面



2階お広前

信徒会長新年のご挨拶 渡辺 秀孝

新年あけましておめでとうございます。

信奉者の皆様には良きお年をお迎えになりました事とお慶び申し上げます。

去年は、韃布教120年の記念大祭が仕えられ有難いお年でした。

今年は、韃布教130年に向けての新たな出発の年に成ります。新しい「目標・願い」をもって、それを実現する「おかげ」の年にしましょう。皆様のご多幸をお祈りしまして挨拶とさせていただきます。



さわかぜ賛助会

さわかぜ賛助会員として、多数の方々のご協力により、機関紙の継続させていただき、令和6年は7回の発行をさせていただくことができましたことは、誠に有り難いこととございます。また、このたびは教会長先生の手書かれた文を抽出して「立てば歩め」の書籍を作製させて頂き、韃布教120年祭の直会とさせて頂きました。

本年もより一層、皆様の機関紙としてお役に立ちたいと念願しております。

今年度賛助会員としてお申し込みいただいた方は次の方々です。(敬称略)

なお、令和6年度の収支決算報告は次ページのとおりです。

ご協力ありがとうございました。

「愛の募金箱」ご協力感謝！

広前に設置された「愛の募金箱」に寄付されました皆様からの令和6年度募金と、ボランティアによる古紙回収の収益金を合わせた金額は、98,364円でした。教会より補填し、日本赤十字社大阪支部へ10万円送金させていただき、青い鳥点訳グループ（点字ボランティア）へ2万円寄付いたしました。

皆様のご協力に感謝申し上げます。今年度もご協力お願いいたします。

月例霊祭日に、祥月命日の御霊様もお呼び出しして
ご慰霊させていただきます。
ご都合お繰り合わせをいただかれ、ご参拝下さい。
(1月25日・2月23日ともに午前10時30分より)





令和7年1月

12日(日) 初月例祭執行 午前10時30分
祭典後、信徒会総会・新年会

13日(月)
～26日(日) 寒修行期間

●定時のご祈念(午前6時、午前10時)に参拝しましょう。

17日(金) 信徒共励会 午前10時30分

25日(土) 月例霊祭執行 午前10時30分

祭典後教話 講題「神に願う」

講師：鶴町教会長 藤坂金生先生

2月

1日(土) 月例祭執行 午前10時30分

2日(日) うりわり墓参 午前7時

2日(日) もちつき大会 節分豆まき 午前10時

8日(土) ご本部月参拝 午前6時教会出発

9日(日) 月例祭執行 午前10時30分

21日(金) 信徒共励会 午前10時30分

23日(日) 月例霊祭並びに

二代教会長和田こゆみ先生例年祭(54年)執行
午前10時30分

祭典後教話、大阪府連盟布教部講師

24日(月・休) 道の子アイススケート大会

浪速スケート場 午後1時30分



3月

1日(土) 月例祭執行 午前10時30分



年間行事予定は、スマートフォンで
二次元バーコードを読み取って確認できます。→

「立てば歩め」第一集 発行

これまで機関紙「さわかせ」に掲載しております教会長先生が執筆された文から抽出し、書籍「立てば歩め」第一集として発行しました。そして昨年の鞆布教120年記念祭時に直会として、参拝者に配布させていただきました。これまで「さわかせ」掲載した内容がまだまだありますので、時機をみて随時発行する予定です。

